

京都検定 公開テーマよもやま話

第16回

京都検定講演会講師による「よもやま話」。
 京都検定を通じて、京都の魅力を再発見しましょう。

第23回京都検定1級公開テーマ

「家康伊賀越えの道」～伝承とその周辺の史跡～



山村 純也
 株式会社らくたび
 代表取締役

青天の霹靂であった本能寺の変は、天正10年(1582)6月2日未明の出来事でした。この時徳川家康は、織田信長の勧めで大坂・堺を見物中であつたとされます。畿内は明智光秀の管轄であつたため、信長の同盟者であつた家康一行には身の危険が迫つていました。

とされます。そこからの道は現在も難所で、途中には平治の乱で自害した藤原信西の塚があり、山中を抜けると、前茶を世の中に広めた永谷宗円の生家付近に出できます。さらに松峠を経て進むと、「猪目窓」が人気の正寿院があり、その門前を800mほど進むと、正寿院と同じ高野山真言宗の遍照院に通じています。ここ

協議の末、三河へと脱出することを選択することは確かですが、その逃走ルートははっきりしていません。しかし

では家康一行が休息をしたとされ、境内には「家康公腰かけの石」も残っています。

ここまでくれば信楽へはすぐの距離。信楽で宿泊した家康一行は最後の難所とされる伊賀へと向かうのです。



家康一行が付近を通つたといわれている大御堂観音寺

この付近で日が変わり6月3日になります。木津川を渡る手前では、途中まで同行していた穴山梅雪が、落ち武者狩りに襲われて落命、飯岡地区の墓地には梅雪の墓も伝わります。草内の渡しから東岸へ着くと、井手町の田原道を駆け抜けたという話や、城陽市の市辺の人々が出迎えて警護をしたという伝承もあります。

宇治田原町に入ると山口城跡があり、ここで家康一行は休息をとつた

京都検定20周年
**記念式典・講演会を
 実施しました!**

10月27日(金)に京都検定20周年記念式典・講演会を実施しました。塚本会頭の式辞で開会した記念式典では、会頭ならびに検定委員会 納屋委員長(株式会社淡交社 代表取締役会長)から京都検定にご支援・ご協力いただいたいる方々へ感謝状を贈呈。続く講演会では、作家の原田マハさんに小説やアート、文化の点から見た京都の魅力を語っていただきました。



▲長きにわたり京都検定委員会委員長をお務めいただいた彌榮自動車株式会社 桑田社長(右)に感謝状を贈呈